

あわじ

TAKUSUI
No. 706

8

August.2015

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



「まりん・あわじ」(淡路市)

平成28年度 政策提案会 開催 但州丸竣工式

《今月の海上安全標語》～簡単に出来ます!～

海中転落時、服を着たままで重くて、船に上がるのも大変!

そんな時、縄梯子がきっと役に立ちます。ロープ1本から簡単に作ることが出来ます!

ディーアイワイ

DIY コベリに垂らそう 縄梯子

なわばしご

では、今月も安全操業で!

ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

(ようこそとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときの号令として使われる)

乱読

(公財)ひょうご豊かな海づくり協会専務理事 **山村 雅雄**



いつのことからか通勤かばんの中には、いつも2、3冊の文庫本が入っています。

たしか小学生のころは、じっと椅子に座っていることが苦手で本を読むことが嫌いな子供でした。夏休みに出る読書感想文の宿題が苦痛で、「漫画になつて伝記もの」や「文字数の少ない詩集」を読んでお茶を濁していたことを思い出します。

そんな少年時代でしたが、思い起こすと学生時代一人暮らしを始めた直後、時間を持て余していた時に本を取った習慣が何となく続いているような気がします。そういう意味ではかれこれ40年以上続いているのかもしれない。

ただ、手に取る本といえば、推理小説、SF小説、旅行記、時代物だけでなく時事モノや話題になつているものなど、種々雑多で軽く流し読みのできるものがほとんどで、まさに、イーजीリーディングの域を出ないものばかりのような気がします。

通勤電車に乗ると、若者たちはスマホを取り出して何やら忙しそうに指を動かしているし、スマホでゲームに興じている私と同年代の連中も見受けられます。こちらはいまだにアナログ人間から離陸する気も全くなく「ガラケーで十分、まして本を読むのに電子書籍なんて」と言いつつ、席に座つて本のページをめくる感覚を楽しんでいます。

寝る前と通勤の合間の毎日約1時間、特に本から知識を得ようとか何かの参考にしようとかいう気はさらさらなのですが、どんな本でもその中に機知にとんだ文章や言葉が1つや2つは見つかります。こんな長く本を読み続けているのには、そんな楽しみがあるのかもしれない。

いま、人に「趣味は？」と問われて、「読書です。」というほどのものでもないし、「乱読です。」というのにもなにか違うような気がします。

いつの日にか、川のせせらぎや潮騒の聞こえる大自然の中で、あるいは、のどかな日差しを受けながら家のリビングで、ゆつくり本を読みながら時間を過ごせるようになって、「趣味は読書です」と言えるようになることを楽しみにしています。

CONTENTS

No.706 August, 2015

- 2 ようこそ
- 3 農林水産施策の推進に係る政策提案会
瀬戸内海再生議員連盟総会
- 4 井上仁氏旭日小綬章受章記念祝賀会
- 5 県立香住高校 第六代実習船「但州丸」竣工
- 6 法務省法制審議会商法部会ヒアリング
明石市新人職員対象の研修会
- 7 淡路地区漁協青壮年部視察研修会
摂津播磨地区漁協青壮年部連合会 消費流通検討会
- 8 但馬地区漁協青壮年部連合会 グループリーダー夏期研修会
JF明石浦 役員研修会
- 9 小学生と一緒に「命を守る運動海上安全講習会」
海難事故をなくそう
- 10 大輪田塾だより
- 11 兵庫JCC通信
- 12 旬に想う
命を守る運動 スタッフユニフォーム作成



表紙の言葉 「まりん・あわじ」(淡路市)

8月2日(日)、明石市と淡路市を結ぶ明石海峡航路に、待望の新造船「まりん・あわじ」(指定管理者:淡路ジェノバライン)が就航し、淡路市の岩屋港で記念式典が行われました。関係者ら約700人が集まるなか、人形芝居「恵比寿舞」で安全祈願が行われるとともに、JF淡路島岩屋の漁船団も大漁旗を掲げて花を添えました。明石淡路フェリー(通称:たこフェリー)が2010年11月に運航を取りやめて以降、高速道路を利用できない小型バイクや自転車が明石海峡を渡れない状況が続いていましたが、この新船は旅客180人、125cc以下のバイク8台、自転車20台を積載することが出来、輸送手段の確保が図られました。船の愛称やデザインは一般公募によって決定され、船にはタコ・タイをはじめ明石海峡付近で漁獲される魚や、淡路島をイメージさせるイラストが描かれています。昨今の自転車ブームで、淡路島内でツーリングを楽しむ人が増えており、船を通じた生活交通手段・緊急救援手段のみならず観光客誘致など地域活性化への貢献が期待されています。(なお、バイク輸送は明石港橋完成後の9月23日からの予定です)

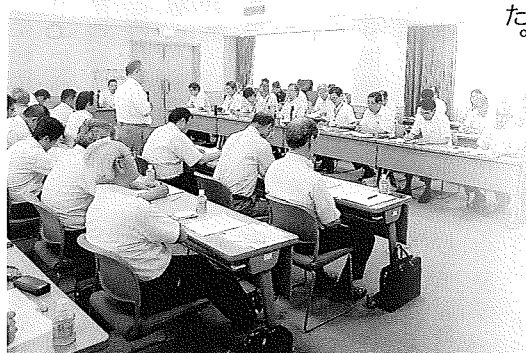
平成28年度農林水産施策の推進に係る政策提案会開催される

JF兵庫漁連

県の翌年度予算や重要施策に系統団体の意見を反映させるための「平成28年度農林水産施策の推進に係る政策提案会」が、7月30日（木）神戸市中央区のひょうご女性交流館において開催されました。

この提案会は、水産業界から水産施策の提案を行う場として、農政環境部長はじめ県幹部出席のもと、毎年、県が開催しているものです。冒頭、挨拶に立った県農政環境部 新岡史朗部長は「国の地方創生について、水産分野においては、浜の活力再生プランが地方創生にあてはまり、基本になるものであると考えておりますので、ご理解とご支援をお願いします。」と挨拶をされました。

これに対し、JFグループ兵庫水産政策協議会を代表してJF兵庫漁連 山田 隆義会長は「燃油高騰対策について、県当局のご支援をいただきながら、国に陳情し、セーフティーネット、省エネ対策等を実施出来た事をうれしく思います。今後もTPP問題を含め、国に要望活動をしていきたいと思っております。」



ます。また、瀬戸内海再生法等、これからも皆様のお力をおかりしながら、色々な施策に取り組んでいきたいと存じますのでご支援をお願いします。」と挨拶しました。

引き続き、JF兵庫漁連 山口 徹夫専務より「漁業経営安定対策について」、「県産水産物の価値向上・需要拡大について」の2項目を重点に提案説明があったあと、これらのテーマを中心に、県幹部とJFグループ兵庫水産政策協議会委員による活発な意見交換がなされました。

—平成28年度政策提案の内容—

〈提案内容1〉 漁業用燃油高騰対策について

- ・ 省燃油活動推進事業を継続
- ・ 省エネ機器等導入推進事業を継続
- ・ 漁業経営セーフティーネット構築事業（漁業用燃油価格安定対策事業）の補填発動基準価格の引き下げや固定化等の対策

〈提案内容2〉 漁業経営安定対策について

- ・ 漁業の協業事業体の設置に係る支援
- ・ もうかる漁業創設支援事業の参画枠拡充のための要件緩和
- ・ 浜の活力再生プランの実践に係る支援・指導
- ・ 産地水産業強化支援事業（強い水産業づくり交付金）による支援の継続実施

〈提案内容3〉 新規漁業就業者研修制度の充実について

〈提案内容4〉 県産水産物の価値向上・需要拡大について

- ・ 地元大型観光ホテル等との連携強化対策の構築
- ・ ひょうごのさかな競争力強化事業（量販店等販売促進事業）の拡充
- ・ ブラジルにおける焼きのり加工場建設に関わる調査事業

の遂行にあたり兵庫県水産課やブラジル兵庫県事務所からの支援

- ・ 学校給食における地元水産物の普及活動への支援

〈提案内容5〉

- ・ のり輸入に係るIQ枠の設定に関する国際交渉について

〈提案内容6〉

- ・ 瀬戸内海環境保全特別措置法の改正を踏まえた具多的施策の推進について

〈提案内容7〉

- ・ 船舶事故による漁業被害への支援について

〈提案内容8〉

- ・ 兵庫県産かき種苗を確保する技術的指導等への支援について

〈提案内容9〉

- ・ 係留施設を利用するプレジャーボート等の所有者等に対する賠償責任保険の加入に関する県条例の制定について

超党派による瀬戸内海再生議連総会 今国会での成立を目指し意思統一を図る

8月10日（月）、参議院議員会館で自民、公明、民主、維新4党議員が出席する瀬戸内海再生議員連盟の総会が開催され、本県から井戸 敏三知事、JF兵庫漁連 山田 隆義会長らが出席し、瀬戸内海環境保全特別措置法の一部改正法案の早期成立を要請しました。国会会期末まで残余38日。総会では、衆議院で琵琶湖関連法案が9月早々にも環境委員会委員長提案で成立する動きにあり、それに呼応すべく、各党間の調整もほぼ終えて8月中旬に参議院で可決成立を目指したいとのことでした。（以下、詳細は次号）

「井上仁氏旭日小綬章受章記念祝賀会」が開催されました



井上仁氏 旭日小綬章受章記念祝賀会

(公財)ひょうご豊かな海づくり協会

7月12日(日)、姫路市内において、播磨漁友会 井上仁会長(ＪＦ岩見組合長、西播地域漁業振興会理事長、ひょうご豊かな海づくり協会理事長)の旭日小綬章受章記念祝賀会が、県下から約210名と多くの方の出席を得て、盛大に開催されました。

井上会長は、御津町議会議員、たつの市議会議員と9期の長きに亘る地方自治への功績とともに地元漁業関係団体の役員としての功績が高く評価され、このたび旭日小

綬章を受章されました。

祝賀会は、

井上仁ご夫妻ご入場ののち、厳かな雰囲気の中、舞囃子「高砂」で始まりまし

た。最初に、発起人を代表して、たつの市栗原一市長が「新生たつの市発足から多くの助言、指導をい

ただいた。井上氏は、地方自治のみならず漁業の分野でも活躍されている。今後も地域の振興や漁業の発展にご尽力いただきたい」と挨拶されました。続いて兵庫県吉本 知之副知事が「地元の御津町、たつの市だけでなく揖保川流域全体の発展はもとより県の瀬戸内海区漁業調整委員会の副会長として地域の困難な漁業調整にご尽力いただき、感謝申し上げます。今後のますますの活躍を確信しています」と祝辞を述べられました。また、山口 壮衆議院議員、松本 剛明衆議院議員からも、井上会長の豊富な議員経験やお人柄を交え、これまでのご功績に謝意を



花束を受け取る井上夫妻

示すとともに今後のさらなるご活躍を期待する旨の祝辞をいただきました。

さらに漁協系統団体を代表して、ＪＦ兵庫漁連 山田 隆義会長から「豊富な知識と経験をもとに広い視野を持ち、漁業系統を指導

いただいている。漁業関係者がこのように広く評価されることを心より嬉しく思っている。今後も漁業振興・発展に一層のご力添えをいただきたい」とのお祝いの言葉で締めくくられました。

その後、受章者から「皆様の温かいご支援で今日の日を迎えることになった。多くの方々身に余る言葉をかけていただいたことに、あらためて深く感謝申し上げます。今後とも恩返しを込め、受章を励みに頑張っていきたい。」と謝辞がありました。

鏡開きに続き、たつの市今川明市議会議員長の音頭で乾杯が行われ、祝宴が始まりました。

今後益々のご活躍をお祈りしての万歳三唱



祝宴の半ばでは、受章者本人が各テーブルを回りこれまでのご厚情に感謝の意を伝えられるとともに、終盤には、振り袖姿の二人のお孫さんから苦楽を共にされた奥様の洋子様とともに満面の笑みで花束の贈呈を受けられました。中締めでは(一社)播磨漁友会 松本力副会長の万歳三唱のご発声、たつの市 松下信一郎議員の閉会の辞となり、盛況のうちに記念祝賀会はお開きとなりました。

県立香住高校 第六代実習船「但州丸」竣工 海洋科学科の生徒ら水産県兵庫の明日に期待

(一財)兵庫県水産振興基金

県立香住高校の第六代目実習船「但州丸」が竣工し、7月8日(水)、同校で記念式典が行われました。平成7年に就航し、約19年間、将来を担う水産・海洋のスペシャリストの養成に貢献してきた第五代「但州丸」(499トン)が老朽化したため、代船建造と



なったものです。新但州丸は358トンとやや小型化されましたが、減揺装置による快適な居住環境の確保や、情報ネットの監視システム、海洋資源調査システム、多様な漁労実習システム、大災害時支援船システムなど高性能の機器類が設備された最新鋭船で、搭載設備や性能は全国の実習船の中ではトップクラスであるといわれています。

当日は時折強い雨が降るなか、式典には兵庫県 井戸 敏三知事、兵庫県議会 上田 良介副議長をはじめ国、県、業界の代表者ら約90名の来賓と全校生徒が出席して新造船の竣工を祝いました。式典は国歌斉唱、そして高井 芳明県教育長の開会挨拶に始まり、井戸知事ほか来賓者の祝辞、学校長謝辞に続き海洋科学科オーシャンコース松葉君が生徒代表で喜びの言葉を述べ閉式となりました。このあと、来賓出席者らはバスで香住東港に向かい、テープカットによる乗船式に続き、約30分の記念航海を終え散会となりました。また、同校は今年で創立70周年を迎えて



式典で但州丸の門出を祝う

おり、この式典も記念事業の一環として行われたものです。その歴史は古く、全国有数の水産県を象徴するものがあり、県内のみならず全国で活躍している多くの水産人を輩出しています。昭和21年に県立香住水産学校として始まり、同23年に県立香住水産高等学校と改称され、初代実習船但州丸もこの年に竣工しました。その後は学区制の実施で普通科の併設などあり同27年には

現在の名称になりました。同校では同記念事業の一環で同月11日(土)、香住町の公民館に「さかなクン」を迎え記念講演会が行われ、全校生徒や卒業生らが出席したとのこと。戦後、海洋立国を目指し全国で県立水産高校が設立されましたが、社会環境の変化で普通科の併設や再編統合が進み、実習船も複数県で共同管理し航海実習を行うケースが多くなっています。そのようななか、本県は井戸知事をはじめ議会や教育委員会の皆さんらが水産教育の大切さを認識頂いてきたお蔭で単独運航となりました。新船就航は業界全体の励みであり意義は大きいものがあります。

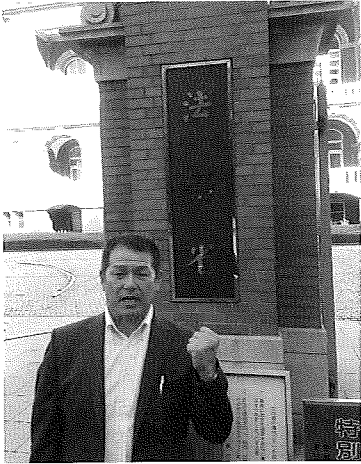


“ようそろ〜” 操船中の井戸知事

「船舶先取特権を生ずる債権の順位及び船舶抵当権との優劣」について

法務省法制審議会商法部会ヒアリングで戎本組合長が意見発表

JF兵庫漁連



ヒアリングに臨む戎本組合長

7月22日(水)、法務省にて、法制審議会商法部会(以下、部会)が開催され、「船舶先取特権を生ずる債権の順位及び船舶抵当権との優劣」について漁業関係を含む各団体へのヒアリングが行われました。そこで漁業団体を代表してJF明石浦 戎本 裕明組合長が意見発表を行いました。

これは、同省が進める商法改正において、現行法上の船舶先取特権が船舶抵当権に劣後する順位の改変が議論されており、船舶事故による漁業損害賠償問題にも重大な影響を及ぼすことから、JF全漁連が同省に意見書を提出し、現行法の維持と漁業者の意見を聞くように求め、同省は改正案へのパブリックコメントの募集とヒアリングの実施を行ったものです。

仮に、原案通りに法改正がなされると、漁業被害より金融債権が優先されるため、場合によっては、被害を受けた漁業者へ損害賠償金が支払われない事態が想定されます。つまり、①船主責任保険に加わっていない船舶による事故被

害、②加入していても付保額が少額あるいは油濁損害と船体撤去費用のみの付保である船舶事故といったケースで加害船舶の差押え以外に被害救済の道はないにも関わらず、改正案のいう金融債権優先の状況では、船体の差押え効果が期待できなくなる恐れがあるというものです。

当日のヒアリングは、JF明石浦のほか、三井住友銀行、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、全国石油商業組合、弁護士、一般社団法人日本中小型造船工業会、日本郵船株式会社計7団体から行われました。意見表明を行った戎本組合長は、過去に大阪湾・播磨灘で発生した事故事例を引き合いに出して、「大損害が発生した場合、現行法のもとで被害が満額補填されることはなく、被った損害は漁業者の肩に重くのしかかってくる。漁業者にとって船舶先取特権は、自力救済の最後の手段と考えている。漁業者は、重要な食料である魚介類を安定的に国民の皆様にお届けする負託に

応えるために頑張っている中で、漁業者の実情をご理解頂きたい」と、被害者救済の観点から現行法どおりとするよう強く訴えました。

なお、ヒアリングでは、金融債権の優先を求める他業界からの意見表明が多数あり、審議会としてどのような結論を出すかは予断を許さない状況にあります。

新人職員対象の研修会実施

明石市 水産課



明石市(泉房穂市長)は、今春入庁した新人職員46人を対象に、28日(火)・29日(水)の2日間にわたり、市内の兵庫県水産会館で研修会を実施しました。

この研修会は、明石市漁業組合連合会(橋本幹也会長・JF江井ヶ島、兵庫県漁業協同組合連合会(山田隆義会長)と連携し、「さかなのまち 明石」らしい取り組みとして、地域ブランドである、明石だこへの愛着や誇りを育て、郷土愛の醸成やシテイセールスにつなげるために今年度初めて開催したものです。

組合長の熱心な話に新人職員も興味をもちながら聞き入っていました。

二日目は、市漁連が用意した最高級の明石だこを使った調理実習が行われました。生きた、明石だこに苦戦しながらも楽しみながら実習に取り組んで、明石が誇る特産品を味わいました。職員は旬の、明石だこを丁寧に塩もみし、熱湯に入れてゆでダコを調理するとともに、郷土料理であるたこ飯にも挑戦しました。試食会では「歯ごたえが良い」「甘味がある」「美味しい」などと、地元のブランド品を堪能した感想が聞かれました。農水産課に配属された竹中祥貴さんは「明石にはこんな素晴らしい魚介類がいっぱいある。もっと知ってもらえるように頑張りたい」と話していました。

橋本会長は「元気のある若い職員に本物の明石だこをいっぱい食べてもらい、これからPRして欲しい」と話していました。



戎本組合長の熱のこもった講義



明石だこの調理風景

平成27年度 淡路地区漁協青壮年部視察研修会 （移動中のフェリー内で安全講習）

淡路地区漁協青壮年部連合会



淡路地区漁協青壮年部連合会（山崎大輔会長・JF淡路島岩屋）は7月13日（月）～15日（水）の3日間にわたり、平成27年度の視察研修会を行い、約10名が参加しました。

13日は、大阪府南港19・50発、福岡県新門司行きの「名門大洋フェ

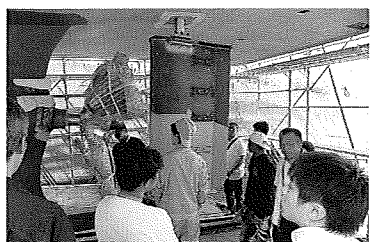
リー」に乗船し、須磨沖から船橋見学を行い、翌14日には下関市にある独立行政法人水産大学校でサバイバル訓練を実施。その後、FRP船の造船所である株式会社ニシエフに移動して、船舶の省エネおよび省力化技術について学習しました。

夜間航行時の船橋（ブリッジ）見学は、普段は見ることが出来ない高さからの景色や様々な航海計器を駆使して操船する様子を見ることが出来た貴重な体験となりました。船長は「夜間航行は主にリーダーで監視するが、イカナゴ漁期の早朝は、船舶が一斉に出港すると、リーダーでは一塊になつて見えるため目視で航行する。大型船はかなり手前から航行するルートを判断しているのので、漁船の皆さんが急に進路を変更した時は冷やっとするところがある」と話をされ、青年部員からは「大型船からサーチライトを照らされると、その後暫く周りが見えなくなる」等の意見をはじめ、漁具や航行に関して情報交換を行いました。

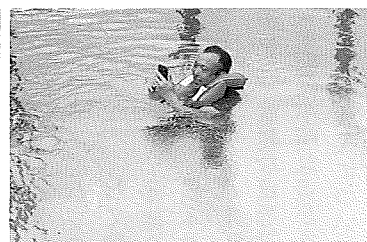
翌日の水産大学校では、鷲尾圭司理事長が「ヨロッパでは危険な環境下や過酷な労働のもとで生産されたものは輸入しないという考え方が主流になっ

ているなか、近年、労働環境の改善が進み、極寒の暴露甲板で網を曳き、揚げるといった船も少なくなつてきている。ライフジャケット着用は、漁船における労働環境改善の第一歩であり、着けていけば自身の命だけではなく、家族や仲間の笑顔も守ると挨拶されました。その後、会場を同大学のプールに移し、サバイバル訓練として、ライフジャケット未着用で浮くことが出来る時間や、ライフジャケットのタイプ別の浮力差、ライフロープの上り方などを体験し確認することが出来ました。

最後に訪問した株式会社ニシエフでは、船舶の省エネおよび省力化技術について話を聞きました。「小型漁船をタイプで表すと滑走型と排水型に分けられる。曳網する漁船で見られる排水型の船舶においてはチャイン（船側外板と船底外板の接合部）を変更する事で、計算と水槽実験で約4%の燃費向上を確認している。大型船では船底形状の変更や様々なフィンの取付け事例があるが、小型漁船では限界がある」との話



（株）ニシエフでの見学の様子



浮いていれば携帯で連絡可能（水産大学校プール）

関西学院大学との消費流通検討会を開催 ～調理実習からロープワークまで幅広い内容で開催～

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会（大西正起会長・JF伊保）は平成25年度から関西学院大学文学部田和正孝教授のゼミ生と交流を始め、これまで消費流通検討会や同大生協での「LOVE SEA A井」提供へと繋げてきました。今年度の検討会は7月11日（土）水産会館4階の調理実習室で行われ、田和教授をはじめゼミ生16名のほか同大生協の専務、学生委員5名、摂津漁青連と関係者約20名が集まり行われました。今回は、漁業の話に加えて、学生が気軽に作ることができる魚料理の紹介やロープワークを交えた内容と様々な体験をしてもらえるよう工夫をしました。



調理実習ではJF兵庫漁連シートクラブの協力で、生きたタコを使った茹でダコづくりと、LOVE SEA A井として提供しているものと同様のシラス丼を作りました。学生らは、タコの感触に戸惑いながらも、すぐに慣れたように皆さん順調に調理を進めていました。時間もそれほど掛からないで仕上げることが出来たことで、魚料理は意外と簡単に出来ることが分かってもらえたようです。続いて、兵庫の漁業とその現状について説明したのち、もやい結びなどのロープワーク実習では青年部員からの熱のこもった指導があり、鮮やかな手つきに、「手品みたい」と感心する学生の姿も多く見られました。実習後には使ったロープを持って帰り、練習したいという学生も多くおり、様々な漁業の姿を知ってもらえ、充実した会となりました。



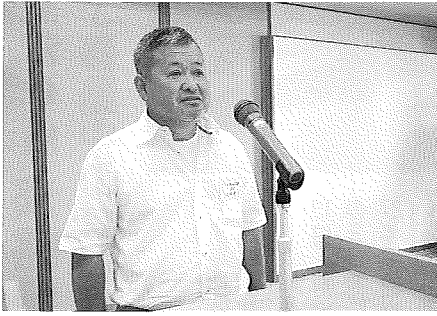
ロープワーク実習は楽しんでもらえました



生のタコを触るのは初めての方が多かったです

グループリーダー夏期研修会を開催

但馬地区漁協青壮年部連合会



但馬地区漁協青壮年部連合会（山中 康正会長）は、豊岡市内のホテルで「平成27年度但馬地区漁青連グループリーダー夏期研修会」を開催し、行政などの関係者も合わせて約40名が参加しました。

まず挨拶を行った山中会長は「様々な魚食普及活動を行っており、今後も加工業者や行政など多くの方々の協力を得て続けていきたい」と述べ、来賓の県但馬水産事務所所高木 英男所長は「この研修会のように、今後の漁業を考えるうえで横の繋がりを積極的に持つことが重要」と同漁青連の活動に期待を寄せられました。

この後、研修報告として、JF但馬津居山青壮年部 森津 真人さんから平成25年度に行なった「坊勢漁協・イオン物流センター視察」について、また、JF但馬香住青壮年部 福本 吉彦さんから平成26年度に行なった「東京シーフードショー視察」について発表がありました。

続く研修会では2課題が行われました。最初に「バイオテレメトリーによるズワイガニの行動追跡」として京都大学 三田村 啓理氏から、日本



講師を務めた三田村氏

海で行ったズワイガニに発信器を取り付けて判明した生態・行動について講義がありました。ズワイガニが潮流から受ける影響や行動範囲などに加え、他県でのアナゴ・メバルの行動範囲がアニメーションを使って紹介されました。次に「アカムツの資源生態」として独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 八木 佑太氏の講義がありました。重要な資源であるアカムツについて生態は不明な点が多いことなど、現在までの研究成果について説明がなされ、どちらの講義も参加者から多くの質問が寄せられました。

海で行ったズワイガニに発信器を取り付けて判明した生態・行動について講義がありました。ズワイガニが潮流から受ける影響や行動範囲などに加え、他県でのアナゴ・メバルの行動範囲がアニメーションを使って紹介されました。次に「アカムツの資源生態」として独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 八木 佑太氏の講義がありました。重要な資源であるアカムツについて生態は不明な点が多いことなど、現在までの研究成果について説明がなされ、どちらの講義も参加者から多くの質問が寄せられました。



アカムツについて講義をする八木氏

全国漁業協同組合学校長を 招き役員研修会

JF明石浦

JF明石浦（戎本 裕明組合長）は、7月14日（火）全国漁業協同組合学校 吉田 博身校長を組合に招き、役員研修会を自主開催しました。出席者はこの6月の総会で選任された理事・監事全員と幹部職員ら30名で、2時間に亘り、協同組合の原則論や水協法の概要、そして漁協経営における理事・監事の役割などを勉強しました。社会環境はめまぐるしく変化し、漁業を取り巻く環境も年々厳しさを増すなか、地域経済の中核をなす漁協の役割は大きく、社会の期待も高まっています。このため、漁協の経営には健全性、透明性そしてコンプライアンス体制の充実などが強く求められており、直接経営に携わる役員員の役割と責務は重大です。

旧習にとらわれず、様々な事業をとおして組合員に直接奉仕する真の協同組合を目指したいという組合長の思いは、役員各氏も理解されており、長時間の研修も終始熱心に耳を傾けられ、あとの懇談会では講師を囲んで熱心な議論が続く時間が足りない様子でした。



研修会終了後、吉田校長を囲んでの懇親会

小学生と一緒に「命を守る運動 海上安全講習会」を開催

～ライフジャケットと救命救急法について学ぶ～

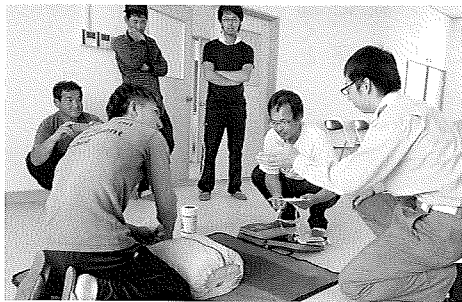
どのようには浮かぶのかを見て、子どもたちも楽しみながら学ぶことが出来たようです。



海に飛び込むとライフジャケットの効果が良く判ります



子どもたちも真剣な表情で受講していました



体験することで、もしもの時の行動に繋がります

次に淡路広域消防事務組合若屋分署の協力を得て、人形を使った胸骨圧迫（CPR）やAEDの使用法、止血法について学び、部員と子どもたちは実習を行いました。部員の中でも実際に訓練をするのは初めの方が多く、真剣に訓練に取り組む姿が見受けられました。このほか、EM団子の投入や、大阪湾の魚について学ぶ場もあり、子どもたちにとっても良い機会となりました。

JF仮屋青壮年部（相田 欽司部長）は、地元小学生と一緒に、ライフジャケットの体験や救急法について学ぶ「命を守る運動 海上安全講習会」（サバイバル訓練）を系統5団体とともに開催しました。

この講習会は、子供たちに地元の漁業を知ってもらうとともに、一緒に海上安全についての知識を深めてもらおうと、昨年からは始まった取り組みです。8月4日（火）、会場となった仮屋漁港に、淡路市立学習小学校5年生児童と教員（45名）と、同青壮年部約20名が集まりました。ライフジャケットの講習では、JF兵庫漁連 宗和 貴光統括代理が、種類や使用時の注意点などを話した後、青壮年部員らが次々にライフジャケットを着用して海に飛び込み、実際に

海難事故をなくそう!

ライフジャケットを着用しよう!

最近発売された膨張式ライフジャケット（FN-80）は従来品に比べコンパクトですが、浮力は十分にあります。

動きやすく、引っぱりにくくなっています!是非、お試しください!



膨張式ライフジャケット（FN-80）
モデル：JF仮屋（大輪田塾10期生）
引野 裕允さん

～安全をサポート～
浮力合羽はお持ちですか？

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。

※国土交通省の型式承認試験基準に合格したものではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



浮きます!

モデル：JF兵庫漁連
兵庫のり研究所
森重 雄大さん

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部（078-942-9272）までお問い合わせください

大輪田塾だより

滋賀県内での現地研修

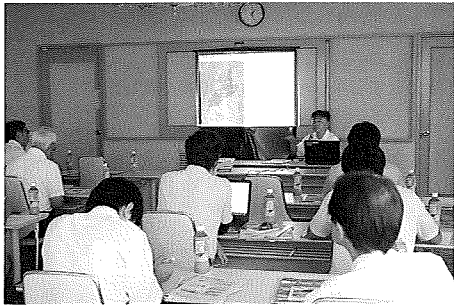
〔一財〕兵庫県水産振興基金

7月の大輪田塾は現地研修として28日(火)・29日(水)に滋賀県で行いました。28日は、大津市の滋賀県水産会館などを訪れ、琵琶湖の漁業や漁場環境のほか、ニゴロブナ種苗生産施設を見学しました。JF滋賀漁連窪田雄二専務と滋賀県水産課二宮浩司専事から「琵琶湖の漁業について」と「琵琶湖の環境の変化と漁獲回復のための取組み」の2講座が設けられ、琵琶湖を取り巻く漁業環境について詳しく話を聞くことが出来ました。琵琶湖では南部(南湖)が富栄養化、北部(北湖)は貧栄養化が進んでいるとされ、南湖での水草の分布が年々広がっていることや、外来魚による生態系への影響とレジャーとの関係、また、滋賀県所有の船に小学生が宿泊し環境について学ぶ取組みのほか、田んぼを利用し稚魚

を育てる取り組みについて詳しく話を聞くとともに、琵琶湖栽培漁業センター(草津市)を訪問し、ニゴロブナ種苗の生産現場も見学することが出来ました。翌日は中国塗料(株)滋賀工場(野洲市)を訪れました。講義は「塗料について」として西川三代吉工場長をはじめとする社員の方々から、塗料の原理や製造工程について、また同工場が研究を行っている建材用塗料の実験施設の見学も行いうことが出来、意見交換では船底塗料の塗り方など様々な意見が交わされました。午後には、ヤンマー(株)の事業概要や取り組みなどを学ぶため、ヤン



挨拶をされる窪田専務



二宮専事からの講義を受ける塾生



琵琶湖栽培漁業センターを見学

マグローバル研修センターとヤンマーミュージアム(長浜市)を訪れました。漁船分野のみならず、農業分野・建設機械分野などでも大きく事業を展開していることや、ヤンマーマリンファームの概要と二枚貝増殖技術、プロトン凍結の紹介など多岐にわたる内容を聞いた後、隣接するミュージアムに移動し、同社の各分野の体験シミュレーターなどで楽しみ



ヤンマー(株)の事業概要について学ぶ塾生(グローバル研修センター)



塗料製造の工程を見学(中国塗料(株)滋賀工場)

ながら理解を深めました。



ヤンマーミュージアムでの記念撮影

この後の大輪田塾

日時：平成27年8月25日(火)

13時から水産会館にて

講義：「平成27年度

大輪田塾修了論文発表会」

爽やかなクールビズシャツが完成 生地には地場産「播州織」を採用

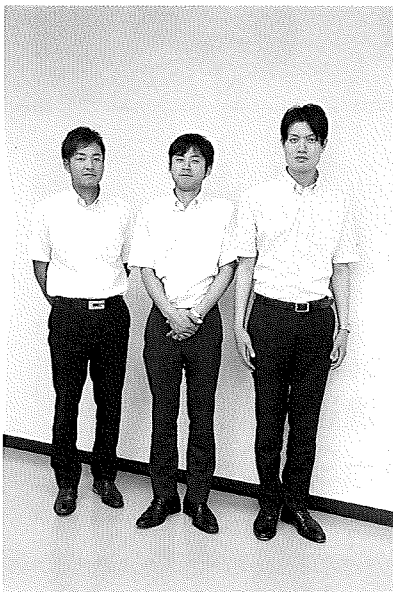
JAみのり

北播磨地域の地場産業「播州織」を使ったJAみのり男性職員の新しいクールビズシャツが完成し、組合員から「涼しそう」「爽やか」と評判になっています。

JAみのりでは、「わたしたちは、地域・人・くらしの未来づくり(ゆたかなみのり)をめざします」の理念に基づき、農産物の「地産地消」を推奨するとともに、地場産業の活性化や地域貢献にも積極的に取り組んでいます。平成24年には、一足早く女性職員の制服生地に「播州織」を採用。今回、男性職員の制服更新時期を迎えるにあたり、男性職員のクールビズシャツにも「播州織」を取り入れることを決めました。

シャツの生地は西脇市の「播州織工業協同組合」から調達。コットン100%の細番手糸を使用した上質素材で、柔らかな風合いが特長。チェックやストライプなど6デ種類のデザイン展開で長袖、半袖を用意しました。

新しいクールビズシャツに袖を通した加東地区



「播州織」のクールビズシャツに袖を通した男性職員ら

融資渉外の松村貴俊さんは「とても優しい着心地。播州織を使っているということなので、組合員さんとの会話に役立てたり、PRできれば」と笑顔で話しました。

兵庫県生協連が 消費者支援功労者表彰を受賞

兵庫県生活協同組合連合会は、消費者庁「平成27年度消費者支援功労者表彰」の「内閣府特命担当大臣表彰」を受賞いたしました。「消費者支援功労者表彰」は、消費者利益の擁護及び増進を図ることを目的に、各方面で活躍されている方々を表彰する制度です。

今回の受賞は、地域に根ざした活動を行い、自立した消費者の育成に向けた活動を兵庫県と協働して推進したこと、消費者問題に関する学習会や毎年3月、一般消費者の消費者問題に対する理解を深めるための「消費者セミナー」の開催、弊機関誌『兵協連だより』の消費者トラブル情報の掲載、また、兵庫県と協定を結び会員生協とともに消費者教育を行ったことなどが評価されました。

5月26日(火)、首相官邸において表彰式が行われ、兵庫県生協連を代表し、寺尾善喜副会長(当時)が授賞式に出席いたしました。安倍総理及び山口大臣から、内閣総理大臣表彰(3個人、2団体)及び内閣府特命担当大臣表彰(11個人、7団体)の受賞者一人一人に表彰状が手渡されました。

兵庫県生協連では、この度の受賞を機として、会員生協のみなさまと一緒に、地域の組合員とともに安心して暮らせる消費者市民社会づくりに取り組んでまいります。



山口大臣から表彰状を授与されました



旬に想う

写真と文
遊方子

虫を食べるはなし

◆ムシ（虫）と聞くだけでイヤな顔をされそうだが、それを食べる話など考えるだけでも気分を害しそうだが、先進国では食虫に対する印象は頗る悪く、野蚕な所業と取る向きが多い。筆者には随分と昔だが、稲の害虫イナゴを食べた記憶があり、醤油のつけ焼きが美味しかったのを覚えていて。イナゴは平安時代に既に記録が残っている食用昆虫で、蛋白質やミネラルが豊富で健康食品と言われる今も佃煮の缶詰が生産されている。映画『魔宮の伝説』はインドが舞台の話だが、大きなカブトムシを食べたり、確かにゲテモノという感じではあった。

◆グルメ大国の中国では紀元前からセミを食べる習俗があり、熟練の技でセミ狩りをした事が『莊子』に記されている。古くから薬食同源という思想があるから、健康的な滋養食として利用したようで、中華料理の「桂花菜」はセミの成虫や幼虫を油炒りし、野菜炒めと合わせたもの、また幼虫を空揚げにしたりもするという。日本に生息しないスジアカクマゼミという種で、研究者の報告では大変に美味だったそうだ。池に棲むタガメやゲンゴロウも味付けして食膳に出るし、雲南や広東省ではバッタやコロギを上手く利用しているという。

◆長野県の園芸試験場でリンゴ園に発生するアブラゼミの幼虫を、缶詰加工できぬかと試作をしたが、これは余り美味しくなかったそうだ。天竜川ではザザムシを採取し大和煮に加工、珍味としている。ザザムシとは浅瀬に住む水生昆虫の総称で、カゲロウやカワゲラ、トビケラなど多種の虫類である。何処の川にも生息しているが、伊那市の特定の場所のものが特に美味しいそうだ。虫踏許可書を持つ人が、12月から2月迄の限定期間に採集する。一二月に越冬中の虫が、殆ど餌を食べないため臭み少なく、大変美味しいということである。

◆スペインの洞窟に旧石器時代に描かれた絵があり、ミツバチの巣から蜂蜜を採取する女性を描いている。片手に器を持ち、頭上に巣の形が描いてあり、当然、幼虫や蛹を蛋白源に利用したと想像できる絵である。那須地方ではハチ食文化の担い手として、地蜂と呼ぶクロスズメバチを採る専門採集家が活躍している。趣味を兼ねた職業で『スガレ追い』と呼ぶ伝承技で巣を探しだし、発煙筒を仕掛けて蜂をマヒさせ一網打尽に巣を掘り取る。幼虫と蛹が珍味とされ、油炒めとし寿司や餅に混ぜる。炊き込んだ蜂の子飯（スボ飯）は、独特の風味あり、昭和天皇も好物であられた。ハチ毒というリスクを冒し、毎年膨大な量の蜂の子が採取されているが、イナゴと共に衰亡傾向にあるのは事実だそうだ。

“命を守る運動 海上安全講習会” スタッフユニフォームを作りました!!

“命を守る運動 海上安全講習会”は、各JF、系統5団体が主催し、ライフジャケット着用推進をはじめ、様々な海上安全につながる講習を行っています。

活動開始から5年経った今年、系統団体スタッフが着用するユニフォームを作成し、今後、さらなる海上安全啓発活動に取り組んでいきます。

開催を希望される場合、下記連絡先までお気軽にご連絡下さい。

“命を守る運動 海上安全講習会”とは…

平成22年1月から始まり、平成27年8月までに延べ55箇所、約2,800人が、海難事故事例とその対策・ライフジャケット着用推進等の内容で受講しています。（この模様は本誌「拓水」で適宜紹介しています。）



“命を守る運動” 海上安全講習会

主催 漁業協同組合・JF兵庫漁連・共水連兵庫県事務所・兵庫県内海漁船保険組合・(公財)ひょうご豊かな海づくり協会・(一財)兵庫県水産振興基金

協力 神戸運輸監理部 各海区の海上保安部

講習会開催についてのお問い合わせは

JF兵庫漁連指導部まで

TEL 078-940-8013